

たかが菜つぱの話から白根節子さん

(所沢生活村代表)

12/13 就農学部大講義室(1点半)

毎日を人間らしく生きていますか

この間に自信を持って生きていると答えることのできる人は、この講義会に来て頂いたく必要がないかもしれません。あなたはその場限りの行動の連続で日々を送っていますか？このままじゃダメだとあせりつつも毎日の生活に追いかけられて、そこから抜け出せずにちがっているのはわたしだけではないと思います。これが現代の宿命だと言うのなら、たら、次に、現代を開拓するためにはどうなじむ？

いかに生き生きと生きるために少しはばかり勇気がいるように思えます。今度我門が訪ねた白根節子さんも、ごく普通の主婦です。ただ勇気(決心)と忍耐力で人生を変えた人です。彼女が所属する「所沢生活村」は「牛乳友の会」を母体として、以前から並ばえつづった食生活を改革しようとする意識を結集して生まれました。批判や反対を基礎とする住民運動から、実験的で建設的な生活共同体組織へ大きく進んだ組織と言えるでしょう。まさに食べ物という日常的なものを通じて、本物の生活を作りつつあります。今回の講義では生産者と消費者の相反する立場までのところにのりこえていったかということも興味ある話題でしょう。

正しい農品を求めるという正当な権利を主張する場合よく聞かれるごとに「せんなることをしてたら何も食べるもののがなくなるじゃないか」というのがあります。こんな反論に白根さんは答えるでしょう。「それはあなたの怠慢です」と。この講義会に、私は自分が動けばほんとうの食べ物を手に入れることができる具体的な可能性を見出していきたいと思います。

「コス・シャレ・コーナー」 京大有機農業研究会主催

有農研（本当は京大有機農業研究会と言うんですけど、長いので略します）では毎月一回は、岩倉にある畑へ行きます。各自学校があり、学生なりに忙しい毎日でさし、住んでいる所も京都の街の中です。畑へ行く動機も、会員やそれ以外で畑に来る人、ひとりひとり違い、将来農業をやろうという人から、ただ土に触りたい人まで様々です。

このよう状態では、生きる営みとしての農業をやっているとは言えないし、畑に行くことだけでは現代農業が抱えている具体的な問題はなかなか見えてきません。そういう問題は会員の4分の1が、「これからどのような生き方をするか」を考え中で

ここで、一つがつづいくことでしょう。それでは今、畑へ何をして行くか。

と言えば、ひとつには実際に畑を耕すことは楽しいし、それで自分達の暮らしのあり様を何か見直せるのではないか

農業部 いかということです。普段の生活や味の感覚など、様

BUS停 みな顔がひとつひとつ見えてきます。商品公害という名前に警かされるのではなく、今の食べ物、今の人々がどんなものかをほんとうにわかつて、これからはどんな食べ物、くらしをするのか考えていきたい。

連絡先：京都市左京区吉田牛宮町 YMCA 地域センター 075-751-4944

